

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム夏桜 1Fはる風	評価実施年月日	平成20年8月1日
評価実施構成員氏名	吉崎 静香      高橋 あずさ      田淵 和子      坂野 奈美      佐藤 愛香      三浦 美鈴		
記録者氏名	三浦 美鈴	記録年月日	平成20年8月31日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して住み慣れた地域で安心した暮らしを、その人らしい地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を事業所の理念として作り上げている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>新人研修の中で理念を伝え、理解してもらうようにしている。又、定例会(毎月1回)では、全職員で斉唱、共有して日々のサービス提供に理念が反映されるように取り組んでいる。</p>		<p>「大切な命を元気で楽しい命に」を運営理念に掲げて 1. 耳を傾けましょう 2. 手を差しのべましょう 3. 美味しく食べましょう 4. 草花・音楽を楽しみましょう 4. 希望を持って元気な皆様の命に感謝しましょうの心得を持ってサービスを提供している。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>日々の生活支援の中で、言葉、実践等を通して理念を伝えていく工夫をしている。パンフレット、年4回発行している事業所広報誌の中に理念を掲載している。ホーム内のエントランスに理念を掲示している。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>日常的に散歩や地域イベント等に出掛け、近所の人達と挨拶を交わしたり、会話をしている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入しており、町内会行事には利用者とともに積極的に参加している。地域の人々が事業所行事への参加、定期的(1回/月)にボランティアとして遊びに來たり、幼稚園との交流にも取り組んでいる。</p>		<p>町内行事のピアノコンサート、茶話会、町内清掃、歩け歩け運動、近隣の特養祭り等に参加している。事業所行事(春、夏、秋、冬外出 クリスマス会、開設記念等)に地域からも参加している。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>事業所の自主研修(救命講習)を開催し、地域・家族に貢献するように取り組んでいる。又、管理者は町内会の会合に関わりながら認知症ケアの啓蒙に努めるように取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価に取り組むようにしている。外部評価の結果はカンファレンスで報告し、改善に向けての検討や実施に繋がるようにしている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	評価機関の選択、評価結果、評価で明らかになった課題について報告し、意見をもらうようにしている。又、前回の会議での検討事項や懸案事項について、報告し、話し合い、一つ一つ積み上げていくようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村主催の研修、グループホーム会議、集団指導等には、必ず出席し、市町村と共にサービスの質の向上に取り組むように努めている。	○	運営推進会議に市町村担当者に参加してもらうよう取り組んでいきたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加した後に、内部研修を開いて学ぶ機会を持つようにしているが、活用できるような機会がないため支援はされていない。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法に関する外部研修に積極的に参加した後、自主研修を実施。又、カンファレンスにおいても理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明に十分な時間をとっている。又、利用料金、起こりうるリスク、重度化についての対応、医療連携体制等を説明して同意書を得るように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問看護を1回／週利用して、利用者の相談にのって貰っている。その意見を反映して運営の参考にしている。又、利用者の言動からその思いを察する取り組みをし、カンファレンス等で話し合い、利用者本位の支援に心掛けている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回(春・夏・秋・冬)の事業所広報誌、毎月のホームお便り(ユニット毎)の中で、行事・生活の様子・職員の異動等について報告している。毎月末には個々の出納帳を確認して家族にサインを貰っている。1年間の生活の様子をDVDに編集して家族にプレゼントしている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約書、重要事項説明書、ホームお便りに苦情相談窓口を明示している。又、家族等の意見は、全体会議で話し合い改善するように取り組んでいる。運営推進会議の中で出された家族等の意見も同様に取り組んでいる。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な個別面談、カンファレンス等を行い、職員の意見や提案を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションをとるように心掛け傾聴と受容の気持ちで取り組んでいる。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者は、状況に応じた対応が出来るように、通常のシフトに入れていないので、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は少なく、起きた場合は、利用者本人、家族、事業所お便り等で伝え、利用者のダメージを防ぐよう取り組んでいる。又、職員が代わる時は、引継ぎ期間を十分にとり、スムーズに移行できるように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外で開催される研修には、各職員が自らの立場・経験に応じた段階的学びの機会を確保している。又、受講後は、毎月の全体会議で発表してもらう。研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	北海道認知症高齢者グループホーム協議会に加入して、事業者団体や市の連絡会、勉強会に積極的に参加して交流に努めている。厚別区グループホームでの相互訪問等の取り組みをしている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	面談時以外にも日常、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。休憩時間と休憩場所を確保してストレスが軽減するための環境作りに取り組んでいる。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者は、事業所行事に必ず参加し、利用者と過ごしたり、個々の職員の業務や悩みを把握するよう努めている。又、職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に家族面談、本人面談を何回か行い、生活状態を把握できるように努め、利用者や家族の思いを受け止め、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を理解して事業所としての可能な対応を事前に話し合うよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時、家族・本人面談時に必要としている支援を見極めて対応に努めている。又、場合によっては他のサービス機関につなげるよう取り組んでいる。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用開始前に、本人や家族に事業所を見学してもらい、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように、又、本人が納得するように家族等に相談しながらサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩であるという考えを職員が共有し、いろいろな場面で生活の技等を教えてもらう声かけや工夫に配慮している。若い職員や妊娠中の職員は、利用者からいたわってもらったり、励ましてもらう場面がある。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の生活の様子や職員の思いをきめ細かく伝え情報共有に努めながら、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族、本人の思いを受け止めて両者の関係の理解に努めている。又、事業所行事に家族を誘ったりしながらより良い関係が築けるように支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族等と一緒に月命日、法事、お墓参りを続けている利用者や昔から続けている詩吟受講の送迎、馴染みの理美容院に行き続けている利用者等、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性が円滑になるように情報を連携して全職員が共有できるようにしている。又、一人ひとりが孤立せず利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、移行先の面会に行ったり、その家族が来訪して利用者や家族と談話される等関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で、一人ひとりに声をかけたり、言葉や表情、行動から汲み取り把握するように取り組んでいる。又、サービス担当者会議に家族にも参加してもらい本人が自分らしく暮らすための本人本位の視点に立って話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談、センター方式ABシート、入居後等において、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズム、心身状態を記録に残すと共に申し送りの中でもきめ細かく伝達して情報を共有し、本人の全体の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	地域で自分らしい暮らしを続けるために本人や家族の思いや意見を聞き、個別の介護計画に反映させている。又、状況に応じてサービス担当者会議を開いて本人、家族等を交えてアセスメント、モニタリング等を行って介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて遂行状況、効果等を評価する。利用者の状態変化が生じた場合は、家族、本人の要望を取り入れ、現状に即した検討見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別にファイルを用意して、食事、水分量、排泄、睡眠、暮らしの様子、本人の言動、エピソード等を記録に残し、全職員が情報共有できるようにしている。毎日のケアプラン実施表を毎月のカンファレンスで検討して見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして、利用者の受診や入院の回避、医療処置を受けながら生活の継続を支援している。又、本人や家族等の状況、その時々々の要望に応じて、通院同行や送迎等の柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が安心して地域の暮らしを続けられるよう、町内会長、福祉推進協議会、民生委員等と協力しながら支援している。定期的なボランティアの訪問又、事業所・町内会行事にもボランティアを活用している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者、家族等の意向や必要性に応じて訪問理美容、訪問マッサージ、クリーニング等を利用するための支援をしている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで、周辺情報等の情報交換や協力関係を築いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族等が希望するかかりつけ医と事業所の関係を築いている。又、受診や通院は、基本的には家族同行となっているが、不可能な時には職員が代行することもあり、その旨を利用契約時に説明し同意を得ている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>事業者の提携医療機関は内科であるが主治医は認知症の理解等自己研鑽に励んでいる。利用者の状況に応じて指示や助言をもらっている。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所の提携医療機関から月1回の訪問診療時に同行している看護師が、週1回訪問看護として利用者の日常の健康管理や医療面での相談・助言・医療活用の支援をしている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時には、本人の支援に関する情報を医療機関に提供し、可能な限り職員が見舞うようにしている。又、家族、病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>利用契約時に事業所の運営方針として、重度者や終末期の人を対象にしていらない旨を説明し同意を得ている。提携医療機関と利用者の日常の健康管理や急変時の対応を利用者と家族等が安心できるよう話し合っている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援は実施していない。利用者、家族等の気持ちを大切にしながら、連携医療機関と話し合い、安心して重度化や終末期を迎えることができるように取り組んでいきたい。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者が住み替えた時は、これまでの暮らしが継続できるようアセスメント、ケアプラン等の支援情報を提供して情報交換を行い又、馴染みの職員が訪問に行く等リロケーションダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>自主研修やカンファレンスの中で認知症の理解や尊厳等について職員の意識向上を図ると共に日々のケアの実践においても利用者のプライバシーの確保を徹底するように取り組んでいる。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の個性性を重視して時間をかけて傾聴し、言葉だけではなく表情を読み取ったり、全職員で情報を共有して本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、押し付けるようなことをしないように取り組んでいる。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら散歩や買い物、畑仕事、サークル活動等できるだけ個別支援に努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣に合わせるように支援している。外出や行事には化粧やおしゃれを楽しむよう取り組んでいる。自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考えて本人の気持ちに沿った支援を心掛けている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者が畑から採って来た野菜と一緒に調理し、盛り付け、配下膳、洗い物等利用者の力を活かすように取り組んでいる。又、メニューの中に入居者の希望を取り入れるよう工夫している。食事時は利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しい雰囲気を作るようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒を好まれる利用者には、行事、野外バーベキュー等にたしなんでもらう、禁酒の診断を受けている方にはノンアルコールビールを楽しんでもらう等取り組んでいる。タバコ、好みの物を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しむことは実施できていない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用して、排泄パターン、時間を把握してトイレ誘導することでトイレで排泄できるよう支援している。又、自宅でオムツを使用していた利用者が下着のみ使用するようになった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	基本的に入浴日は日曜日以外で時間帯は日中となっているが、本人の希望に合わせて入浴できるようにしているが、夜間の入浴は夜勤者一人のため取り組んでいない。入浴には個別性を大切に時間をかけて、コミュニケーションを十分にとり、安心して楽しんでもらうよう支援している。又、嫌がる利用者には強要していない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を多く取り入れ、生活リズムを整えるよう努めているが無理強いはいしないで、一人ひとりの体調や希望等を考慮して、安心して休息がとれるよう支援している。寝つけない時には、傾聴したり、温かい飲み物を飲んでもらう等リラックスできるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日の暮らしを共にする中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ得意分野で個別の力を発揮してもらえよう支援している。又、四季の自然に触れる外出や、YOSAKOI見物、地域行事への参加、専門店です食事を楽しむ等利用者が気分転換出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお金を預かり、事業所が管理しているが、買い物やおさい銭等は自分で払ってもらようお金を手渡す工夫をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節や天気、楽しみごとに合わせて最低月1回の車での外出、外食、買い物、野外での焼肉等楽しんでもらうよう支援している。日々の散歩、ドライブも一人ひとりの希望や力に応じて出来る範囲で対応するよう取り組んでいる。歩行困難な利用者でも、車や車椅子を利用して参加できるよう支援している。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりの思いや願いを叶えられるよう、利用者、家族等と相談し、家族と共に出かけられる機会を作り支援している。町内会婦人部の日帰り温泉に利用者と職員が一緒に参加して思いが叶うよう支援している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や友人に本人自ら電話を希望された時は、電話の子機を使用して自室でゆっくり話ができるよう支援している。希望がなくても連絡したい気持ちを汲み取り声かけをしている。年賀状、暑中見舞い等自筆で返信される利用者には投函等の支援をしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人達がいつでも気軽に来やすい雰囲気作りに心掛けている。訪問時間は定めてなく、居心地良く過ごせるよう一緒に食事したり等の配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カンファレンスや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り身体拘束が行われていないか等点検している。又、権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者が外出しそうな様子を感じたら、止めずにさりげない声かけをして一緒についていく等安全面に配慮している。日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は利用者の所在や様子を把握できる位置にいて安全面に配慮している。夜間は居室が見通せる、物音の聞き取れる場所で休む等配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、利用者の状況に照らしながら利用者が保管管理しても安全な物、保管管理が必要な物、利用者が使う時に注意が必要な物等に分けて危険を防ぐよう取り組んでいる。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデントを記録し職員の共有認識を図っている。又、日々の申し送りの中で一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、未然に事故防止するよう取り組んでいる。家族の説明と報告も行っている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て全職員が対応できるよう救命講習会の研修を年に1回実施している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防関係の協力を得て利用者、地域住民の参加、協力を得ながら定期的に避難訓練を行っている。災害時の避難場所の認識、備品等を準備している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援するために、一人ひとりに起こり得るリスクや事業所の取り組みを家族等に丁寧に説明し理解を得られるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	一人ひとりの日常の状況を職員は把握しており体調の変化や異変が見られた時は、バイタルチェックを行い変化時の記録をつけて情報を共有、状況により医療受診につなげている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	最新の処方箋を個人ファイル毎に管理して、職員が把握できるようにしている。薬が変更になった時は、必ず経過観察情報を共有している。配役時は薬包の名前を声に出して本人に手渡し正しく服用されているか確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を採り入れ、便秘がちな利用者には朝夕の味噌汁に糸寒天を入れる等自然排便が出来るよう工夫している。散歩、廊下歩行、階段・踏み台昇降、掃除等の運動の働きかけも取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨きや義歯洗浄は、一人ひとりの口腔状態や力に応じて日常的に支援し、ケアプランにも取り入れている。出血や炎症、義歯の不具合は、日々チェックして状態に応じて歯科受診につなげている。拒否する利用者には毎食後の支援は実施していないが就寝前の支援のみしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を毎日チェックして記録に残し全職員で情報を共有している。食事内容を写真に撮って管理栄養士の専門的アドバイスをもらうようにしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症についてはマニュアルを作成し全職員で予防・対策に努めている。インフルエンザ対策として利用者(家族同意)と職員はインフルエンザ予防接種を受け、ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用する等の予防・対策を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルとチェック表を用いて職員は、台所、調理用具等の衛生管理に努めている。新鮮で安全な食材を使用するために頻りに買い物に出かけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には利用者手作りの表札を掲示し、ベンチやプランターを置いている。畑が楽しめるスペースにはパラソルテーブルとベンチを置いて利用者と家族、近所の人の休憩所になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアの飾りつけは利用者と一緒に考えて四季おりおりの特徴を工夫している。桜餅やぼた餅作り、鍋料理、バーベキュー等五感や季節感を意欲的に取り入れ、食事中にはBGMを流す工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間・ワークスペースの2ヶ所にソファ、テーブル、テレビを置いて写真や動物カレンダーを貼って居心地の良い空間を作り、バルコニーは利用者同士の井戸端会議の場所になっていて下校時の子供達や近隣住民に気軽に声かけ合う等利用者が自由に過ごせる場所になるよう工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人や家族の希望をできるだけ取り入れ、使い慣れたものや馴染のものを活かして本人が居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ホーム内2ヶ所に温度・湿度計を設置し適切な温度・湿度を保つようにしている。居室、トイレは24時間換気と温湿度計を設置している。又、各部屋の暖房は個々に合わせて温度調節が出来る等利用者の状況に応じて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内はバリアフリーで移動場所に手すりを設置し、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。身障者用トイレ、浴室内にも手すりを設置して安全確保と自立への配慮をしている。台所はオープンキッチンになっていて自由に出入りが出来るよう工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>利用者一人ひとりの分る力を見極めて、不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については検討して状況に合わせた環境整備に努めている。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>居間から出入り自由なバルコニーには椅子、テーブルが置いてある。又、物干し台の洗濯物作業、畑の横にはパラソル付テーブルと椅子を置いて自然の中で利用者が会話を楽しんだり、活動できるよう工夫している。</p>	



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	<p>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる</p> <p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p>
89	<p>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある</p> <p>○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
90	<p>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている</p> <p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
91	<p>利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている</p> <p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
92	<p>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている</p> <p>①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
93	<p>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている</p> <p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
94	<p>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている</p> <p>○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p>
95	<p>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています</p> <p>○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) ①職員は入居者一人ひとりを理解しようと努めています。 ②記録を解りやすく取っている。 ③安心できる環境作りに努めている ④町内(地域)の方々との交流を取っている。 ⑤外出行事に参加できる家族には声かけして一緒に楽しんで頂くよう取り組んでいる。